

5年生公開授業

11/30(木)は、5年生の国語科公開授業『注文の多い料理店』が行われました。

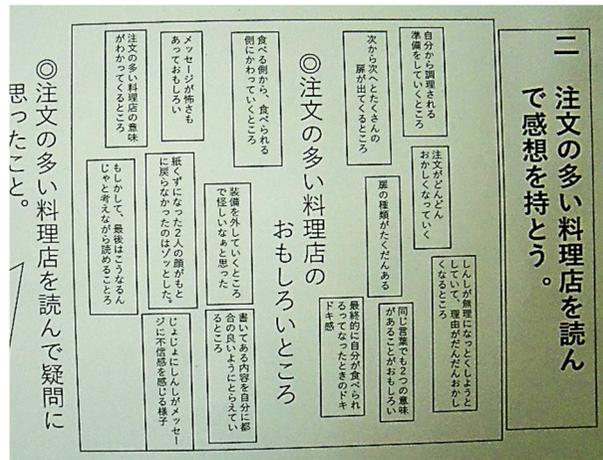
授業

5年生は『注文の多い料理店』の学習を、本文の表現に注目しながら物語のおもしろさに気づくように、学習を進めてきました。自分の意見はタブレットの発表ノートに打ち込み整理し、まとめる活動を大切にしながら学習してきました。また自分たちで見つけた作者の“しかけ”のおもしろさを共有しながら、本時の学習に入りました。

本時は『不思議な世界の入り口と出口を
見つけて物語の構造をつかむ』学習でした。今回の物語はファンタジーでその構造を確認するために、まずは知っている物語やアニメで【ファンタジーの入り口と出口の確認】を行った後、本文を読んで不思議な世界への入り口・出口を探しました。児童はそれぞれ自分の考えを持ちながら、さらにグループで交流し検討。色々な意見がでましたが、一つの班(数名だけが)が作者のしかけ《現実の世界》 風・《異世界の黒猫軒》・風 《現実の世界》に気づき、みんなも



児童が知っているお話で、ファンタジーの構造を確認



作者のしかけた“おもしろさ”を資料で交流

驚き、そして納得。しかしそれだけではなく“飼い犬の生死”にも注目し、本文のファンタジーの構造を違う角度からも考察。児童も違う見方にも納得し、あらためて『注文の多い料理店』のおもしろさに気づき、<物語のおもしろさを見つける読み方・考え方>が学べた、1時間の学習だったように思いました。



不思議な世界の入り口・出口を相談中

不思議な世界の入り口・出口を相談中
授業者からは物語のおもしろさを感じさせたい、またおもしろさとは何かを追求したいというねらいで、この単元に臨んでいる。今日はその中で不思議な世界の切れ目と、さらに犬が生き返ったところの矛盾点やおもしろさを考えたかったが、少し盛りこみすぎてしまい、終わらせるため講演会的になってしまった、と振り返りがありました。しかし児童の反応はよく、その後の休み時間でも不思議な世界の切れ目について話題になっていました。学年での事前の取り組みとして指導案通りでは切れ目が見つからないので、具体例を挙げて説明したが、逆に具体的過ぎると具体物を探すことにより、よりわかりにくくなってしまったという反省もありました。参加者からは児童が指導者の話・言葉に反応していて、楽しんでいる。それは児童のつぶやきや反応・食いつきからもわかり、日々の学習に対する積み重ねが表れているや、班で発表した意見は教科書の広い範囲で様々だったので、タブレットやTVを使い視覚的に確認した方がよかったなどの意見が出ました。さらに犬が生き返ってからの矛盾点や不思議さ、犬の生死とファンタジーに関わる部分は、指導者が伝えるのではなく時間的に可能ならば児童に気づかせ発表させた方がよかったのでは、という意見もありました。内容がおもしろく児童のつぶやきを聞いていても、みんなが考えたい発問だった。自分もそういう授業をやりたい。またねらいがわかりやすい授業で、タブレットを触らずしっかり友だちの発表を聞いている児童が多かった。今回タブレットを活用した理由や単元最初のページを事前に触れていたかなどの、質問も出ました。教科書を確認しながら、タブレットに理由を記入
タブレットの有効的な使い方について色々な授業を見学したので実践してみたが、自分の意見・考えを“書く”よりタブレットに“打ち込む”方がしっかり考えられていたや、必ず単元始めのページにも触れ読んでいることなどが、授業者から紹介されました。児童の実態に応じて教師主導だったが、もっと話し合いがあってもよかった。ただ児童の反応がよく、学習の目指すところが明確でよい授業だった、と感想もいただきました。



高学年のブロック会・事後研では、

- 可能な限り児童の話し合い活動の時間を確保する。
- ルールを丁寧に確認し、タブレットを有効的に使用する。

などを確認し、事後研を終えました。